新箱処理剤によるフタオビコヤガの効率的防除法

農林総合研究センター（水田農業研究所）

キーワード：水稲、害虫、防除、農薬、育苗箱施薬、フタオビコヤガ

1　技術の特徴

フタオビコヤガはこれまで、水稲の初期害虫として５月から７月までが防除時期と考えられてきた。しかし、近年は７月下旬から８月の被害が問題化している。育苗箱施薬剤の効果のなくなるこの時期には散布剤処理が防除の主流となり、防除の困難性が指摘された。そのような中で、新規に開発された育苗箱施薬剤では、田植以降、７月中旬から８月初旬までの防除が可能であることがわかった。

2　技術内容

（1）　フタオビコヤガが多発している菖蒲町において検討した。

（2）　平成19年は、ビームアドマイヤースピノ箱粒剤を検討した。５月下旬移植水稲を食害株数で比較すると、対照薬剤のプリンス粒剤が６月上旬までの効果であったのに対し、本剤は８月上旬までの効果が認められた（表１）。同様に、６月中旬移植水稲においては、食害株数では７月中旬までの効果であったが、幼虫数で比較すると８月上旬までの効果が認められた（表２．３）。

（2）　平成20年は、フルサポート箱粒剤を５月下旬移植水稲で検討した。食害株数で比較すると、対照薬剤のプリンス粒剤が６月中旬までの効果であったのに対し、７月中下旬までの効果が認められた（表４）。

（3）　以上の平成19年と20年に供試した２薬剤には、イミダクロプリドとスピノサドの２成分が含まれており、この２成分の含まれる各種薬剤の有効性が示唆された。

3　具体的データ

表1　ビームアドマイヤースピノ箱粒剤とプリンス粒剤のフタオビコヤガ幼虫に及ぼす効果
「100株あたりの食害痕株数」　（2007年５月移植）

試験区	調査月日（移植後の日数）			
	6.6(9日後)	6.15（18日後)	7.14(47日後)	8.2(66日後)
1. ビームアドマイヤースピノ箱粒剤（イミダクロプリド・スピノサド・トリシクラゾール粒剤）	1	0	2	13
2. プリンス粒剤（フィプロニル粒剤）	2	9	100	100
3. 無処理	13	12	99	100

注1）5月26日移植。薬剤は育苗箱への移植当日、所定量処理。「品種：朝日の夢」。成分名：アンダーラインは殺虫成分。
注2）7月30日に全試験区にパダン・バッサ(カルタップ・BPMC)粒剤を散布。

表2　ビームアドマイヤースピノ箱粒剤とプリンス粒剤のフタオビコヤガ幼虫に及ぼす効果
「100株あたりの食害痕株数」　（2007年６月移植）

試験区	調査月日（移植後の日数）			
	6.23（10日後）	7.3（20日後）	7.14（31日後）	8.2(50日後）
1. ビームアドマイヤースピノ箱粒剤（イミダクロプリド・スピノサド・トリシクラゾール粒剤）	0	4	4	100
2. プリンス粒剤（フィプロニル粒剤）	0	24	97	100
3. 無処理	2	41	100	100

注1）6月13日移植。薬剤は育苗箱への移植当日、所定量処理。「品種：彩のかがやき」。成分名：アンダーラインは殺虫成分。
注2）7月16日にプリンス粒剤区と無処理区にスミチオン(MEP)乳剤を散布。

表3　ビームアドマイヤースピノ箱粒剤とプリンス粒剤のフタオビコヤガ゛幼虫に及ぼす効果

「直径36cm捕虫網の20回振り捕獲数」　(2007年６月移植)

試験区	調査月日(移植後の日数)		
	7.14(31日後)	7.21(38日後)	8.2(50日後)
1. ビームアドマイヤースピノ箱粒剤（イミダクロプリド・スピノサド・トリシクラゾール粒剤）	0	1	8
2. プリンス粒剤（フィプロニル粒剤）	39	38	29
3. 無処理	28	68	23

注1）6月13日移植。薬剤は育苗箱への移植当日、所定量処理。「品種：彩のかがやき」。成分名：アンダーラインは殺虫成分。
注2）7月16日にプリンス粒剤区と無処理区にスミチオン(MEP)乳剤を散布。

表4　フルサポート箱粒剤とプリンス粒剤のフタオビコヤガ幼虫に及ぼす効果

「100株あたりの食害痕株数」　(2008年５月移植)

試験区	調査月日(移植後の日数)				
	6.7(15日後)	6.15（23日後)	7.1(39日後)	7.15(55日後)	8.2(71日後)
1. フルサポート箱粒剤（イミダクロプリド・スピノサド・チフルザミド・トリシクラゾール粒剤）	0	0	0	5	77
2. プリンス粒剤（フィプロニル粒剤）	4	11	8	32	100
3. 無処理	2	22	6	47	100

注）5月26日移植。薬剤は育苗箱への移植当日、所定量処理。「品種：朝日の夢」。成分名：アンダーラインは殺虫成分。

４　適用地域

フタオビコヤガの発生が警戒される地域

５　普及指導上の留意点

（１）　殺虫成分のイミダクロプリドとスピノサドの２成分が含まれる箱施薬剤は、平成20年度末現在、全てが殺菌剤との混合薬剤であり、殺虫２成分だけの箱施薬剤は市販されていない。

６　試験課題名（試験期間）、担当

水稲生産における農薬ドリフトレスの新防除体系組立実証　、(2007～2008年度)、水田農業研究所生産環境担当